



## 平成30年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年8月10日

上場取引所 東 名

上場会社名 ジャパンベストレスキューシステム株式会社

コード番号 2453 URL <https://www.jbr.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 榎原 暢宏

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員コーポレートプラットフォームカンパニー長 (氏名) 若月 光博 TEL 052-212-9908

四半期報告書提出予定日 平成30年8月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無：無

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成30年9月期第3四半期の連結業績（平成29年10月1日～平成30年6月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年9月期第3四半期	8,864	△5.3	997	53.6	1,205	69.4	899	22.2
29年9月期第3四半期	9,358	6.6	649	△19.1	711	△16.3	736	△7.3

(注) 包括利益 30年9月期第3四半期 990百万円 (56.2%) 29年9月期第3四半期 634百万円 (△42.9%)

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
30年9月期第3四半期	28	68	28	63
29年9月期第3四半期	22	52	—	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年9月期第3四半期	14,243	41.3	5,885	41.3	5,885	41.3
29年9月期	13,220	40.6	5,373	40.6	5,373	40.6

(参考) 自己資本 30年9月期第3四半期 5,884百万円 29年9月期 5,373百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
29年9月期	—	3.00	—	6.00	—	9.00
30年9月期	—	4.00	—	—	—	—
30年9月期（予想）	—	—	—	6.00	—	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成30年9月期の連結業績予想（平成29年10月1日～平成30年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	11,800	△4.8	1,230	38.2	1,320	38.5	970	9.4	30	88

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社 （社名） 、除外 一社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

30年9月期3Q	34,688,000株	29年9月期	34,685,000株
30年9月期3Q	3,403,400株	29年9月期	3,167,000株
30年9月期3Q	31,367,119株	29年9月期3Q	32,699,365株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(追加情報)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9
(その他)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善のなか、個人消費も堅調に推移し、緩やかな回復基調が続いております。一方、海外では地政学的リスクが顕著化するなか、景気先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況の下、当社グループは「困っている人を助ける！」という経営理念に基づき、「ありがとう」と言ってもらえる、安心・快適なサービスを提供することで、既存事業の強化と新たな成長基盤の確立に取り組んでまいりました。

当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高は8,864,986千円（前年同期比5.3%減）、営業利益は997,651千円（前年同期比53.6%増）、経常利益は1,205,498千円（前年同期比69.4%増）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は899,702千円（前年同期比22.2%増）となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間における作業件数はガラス関連サービス6千件、水まわり関連サービス26千件、カギの交換関連サービス31千件及びパソコン関連サービス6千件であります。

各セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第3四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

#### ① 駆けつけ事業

当第3四半期連結累計期間における当事業の売上高は、1,270,553千円（前年同期比44.6%減）となり、営業利益は95,766千円（前年同期比49.2%増）となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より売上高及び売上原価の計上方法を変更しております。

詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（追加情報）」に記載のとおりであります。

#### ② 会員事業

当第3四半期連結累計期間における当事業の売上高は、4,646,900千円（前年同期比10.7%増）となり、営業利益は1,033,534千円（前年同期比28.6%増）となりました。

#### ③ 少額短期保険事業

当第3四半期連結累計期間における当事業の売上高は、2,672,838千円（前年同期比4.2%増）となり、営業利益は245,260千円（前年同期比14.1%増）となりました。

#### ④ リペア事業

当第3四半期連結累計期間における当事業の売上高は、326,076千円（前年同期比10.4%減）となり、営業損失は38,720千円（前年同期は営業損失110,329千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、前連結会計年度末と比べ427,213千円増加し、8,725,000千円となりました。これは主に、現金及び預金が507,397千円増加したことによるものであります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、前連結会計年度末と比べ595,330千円増加し、5,518,237千円となりました。これは主に、投資有価証券が491,887千円増加したことによるものであります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、前連結会計年度末と比べ27,824千円減少し、4,210,075千円となりました。これは主に、前受収益が308,140千円、短期借入金が155,000千円増加したものの、1年内返済予定の長期借入金が628,168千円減少したことによるものであります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、前連結会計年度末と比べ538,896千円増加し、4,147,789千円となりました。これは主に、長期前受収益が482,324千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末と比べ511,472千円増加し、5,885,373千円となりました。これは主に、自己株式が167,042千円増加したものの、利益剰余金が585,456千円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想に関しましては、平成30年4月23日の「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,356,732	6,864,129
受取手形及び売掛金	988,045	911,960
商品	86,066	71,948
貯蔵品	4,592	7,092
その他	897,968	894,779
貸倒引当金	△35,617	△24,910
流動資産合計	8,297,787	8,725,000
固定資産		
有形固定資産	169,350	154,568
無形固定資産		
のれん	215,490	164,619
その他	204,017	330,804
無形固定資産合計	419,508	495,424
投資その他の資産		
投資有価証券	3,460,291	3,952,178
破産更生債権等	1,387,719	1,383,369
その他	961,956	1,001,215
貸倒引当金	△1,475,919	△1,468,519
投資その他の資産合計	4,334,048	4,868,244
固定資産合計	4,922,906	5,518,237
資産合計	13,220,694	14,243,237
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	504,423	452,832
短期借入金	45,000	200,000
1年内返済予定の長期借入金	628,168	—
未払法人税等	117,082	173,543
賞与引当金	2,443	30,858
会員引当金	209,359	171,833
支払備金	42,428	35,907
責任準備金	610,687	588,367
前受収益	1,286,167	1,594,308
その他	792,139	962,424
流動負債合計	4,237,900	4,210,075
固定負債		
資産除去債務	53,787	54,905
長期前受収益	3,304,612	3,786,937
その他	250,492	305,946
固定負債合計	3,608,892	4,147,789
負債合計	7,846,792	8,357,864

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	779,643	780,363
資本剰余金	3,627,029	3,627,749
利益剰余金	1,274,654	1,860,111
自己株式	△879,133	△1,046,176
株主資本合計	4,802,193	5,222,047
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	571,707	662,626
その他の包括利益累計額合計	571,707	662,626
新株予約権	—	700
純資産合計	5,373,901	5,885,373
負債純資産合計	13,220,694	14,243,237

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年6月30日)
売上高	9,358,378	8,864,986
売上原価	5,350,590	4,729,024
売上総利益	4,007,787	4,135,961
販売費及び一般管理費	3,358,461	3,138,310
営業利益	649,326	997,651
営業外収益		
受取利息	1,387	1,918
受取配当金	23,089	121,267
投資有価証券売却益	—	114,635
補助金収入	33,031	—
その他	13,129	10,850
営業外収益合計	70,637	248,671
営業外費用		
支払利息	2,823	1,308
保険業法第113条繰延資産償却費	964	—
投資事業組合運用損	1,011	15,423
自己株式取得費用	2,443	652
支払手数料	—	15,824
その他	1,074	7,615
営業外費用合計	8,318	40,824
経常利益	711,645	1,205,498
特別利益		
固定資産売却益	1,205	—
投資有価証券売却益	396,397	58,272
その他	410	5,290
特別利益合計	398,012	63,563
特別損失		
固定資産売却損	13,000	—
固定資産除却損	15,918	1,801
投資有価証券評価損	48,421	15,104
特別退職金	32,771	—
その他	—	364
特別損失合計	110,111	17,270
税金等調整前四半期純利益	999,546	1,251,791
法人税等	263,059	352,089
四半期純利益	736,487	899,702
親会社株主に帰属する四半期純利益	736,487	899,702



(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年6月30日)
四半期純利益	736,487	899,702
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△102,372	90,918
その他の包括利益合計	△102,372	90,918
四半期包括利益	634,115	990,621
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	634,115	990,621
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(連結損益計算書)

従来、駆けつけ事業においては、顧客から受領した代金を当社の売上高、加盟店・協力店に支払った作業代金を売上原価に計上しておりましたが、加盟店・協力店との契約内容を改めたことに伴い、第1四半期連結会計期間より紹介手数料を売上高に計上しております。

これにより、従来の方法に比べ当第3四半期連結累計期間において売上高及び売上原価はそれぞれ715,058千円減少しておりますが、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益の影響はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成29年12月21日開催の取締役会決議に基づき、自己株式236,400株の取得を行いました。これを主な原因として、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が167,042千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が1,046,176千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年10月1日 至 平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	駆けつけ	会 員	少 額 短 期 保 険	リ ペ ア	計		
売上高							
外部顧客への売上高	2,294,693	4,198,052	2,501,842	363,789	9,358,378	—	9,358,378
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	1,349	63,411	—	64,760	△64,760	—
計	2,294,693	4,199,401	2,565,254	363,789	9,423,139	△64,760	9,358,378
セグメント利益 又は損失(△)	64,177	803,438	215,043	△110,329	972,330	△323,004	649,326

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△323,004千円には、セグメント間取引消去6,494千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△329,498千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年10月1日 至 平成30年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	駆けつけ	会 員	少 額 短 期 保 険	リ ペ ア	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,270,553	4,645,205	2,623,149	326,076	8,864,986	—	8,864,986
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	1,695	49,688	—	51,383	△51,383	—
計	1,270,553	4,646,900	2,672,838	326,076	8,916,369	△51,383	8,864,986
セグメント利益 又は損失(△)	95,766	1,033,534	245,260	△38,720	1,335,840	△338,189	997,651

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△338,189千円には、セグメント間取引消去4,367千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△342,556千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの区分方法の変更)

第1四半期連結会計期間より、管理体制の強化を目的とした会社組織の変更に伴い、報告セグメントを従来の「コールセンター事業」、「会員事業」、「企業提携事業」、「加盟店事業」、「少額短期保険事業」及び「リペア事業」の6区分から、「駆けつけ事業」、「会員事業」、「少額短期保険事業」及び「リペア事業」の4区分に変更しております。

また、報告セグメントごとの業績をより適切に反映させるため、全社費用の配賦基準を見直し、事業セグメントの利益又は損失(△)の算定方法の変更を行っております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分及び配賦基準に基づき作成したものを開示しております。

(売上計上方法の変更)

駆けつけ事業において、第1四半期連結会計期間より売上高及び売上原価の計上方法を変更しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(追加情報)」の記載のとおりであります。

(その他)

(重要な訴訟事件等)

当社は、当社の子会社であった株式会社バイノスに対し、金銭消費貸借契約に基づき金銭の貸付を行っていましたが、同社が平成28年1月19日に福島地方裁判所郡山支部より破産手続開始決定を受けたことから、その連帯保証人である同社の元代表取締役湯川恭啓氏を被告として、保証債務の履行を求める民事訴訟を、名古屋地方裁判所に提起し、提出日現在係争中であります。